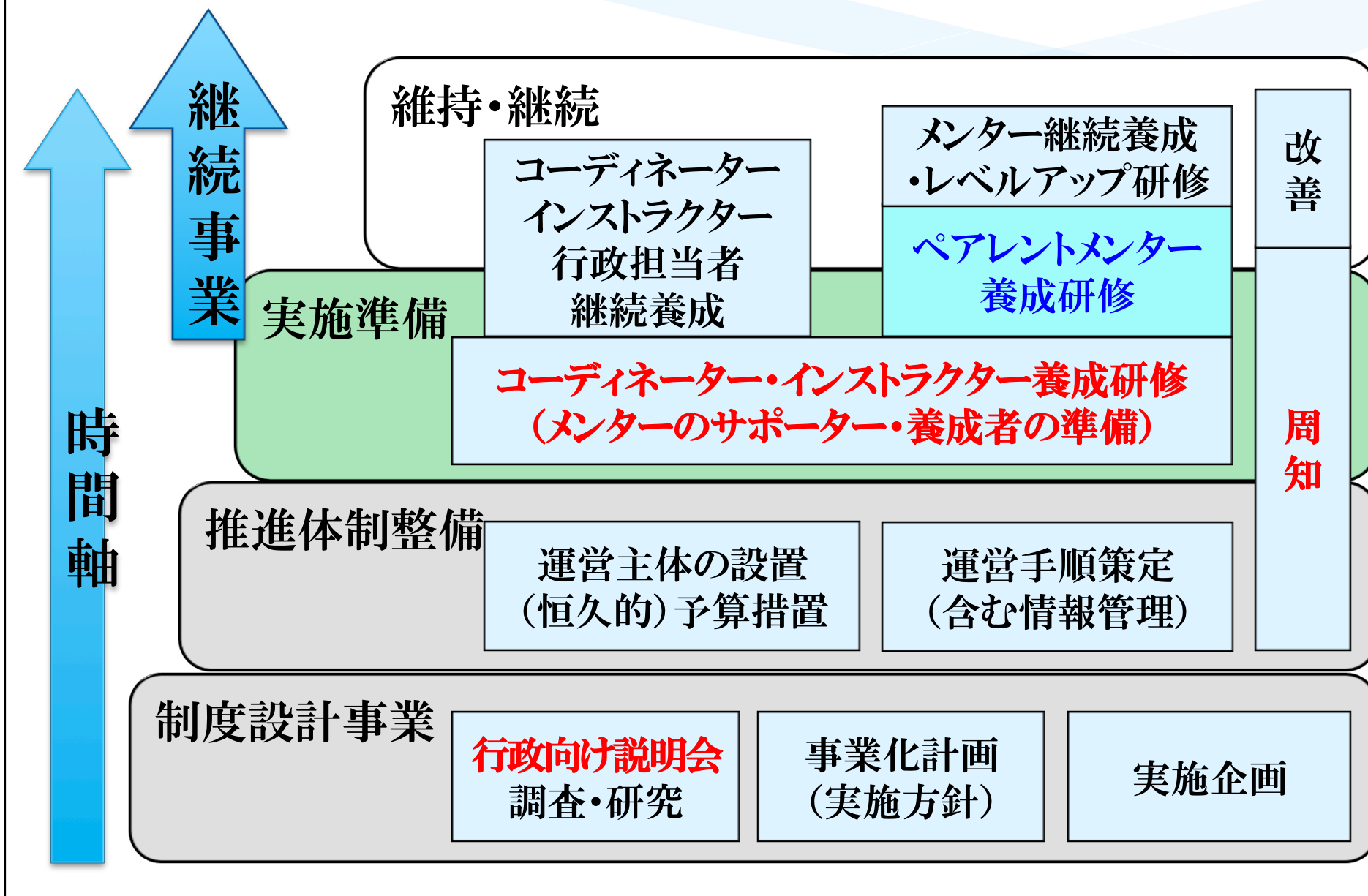


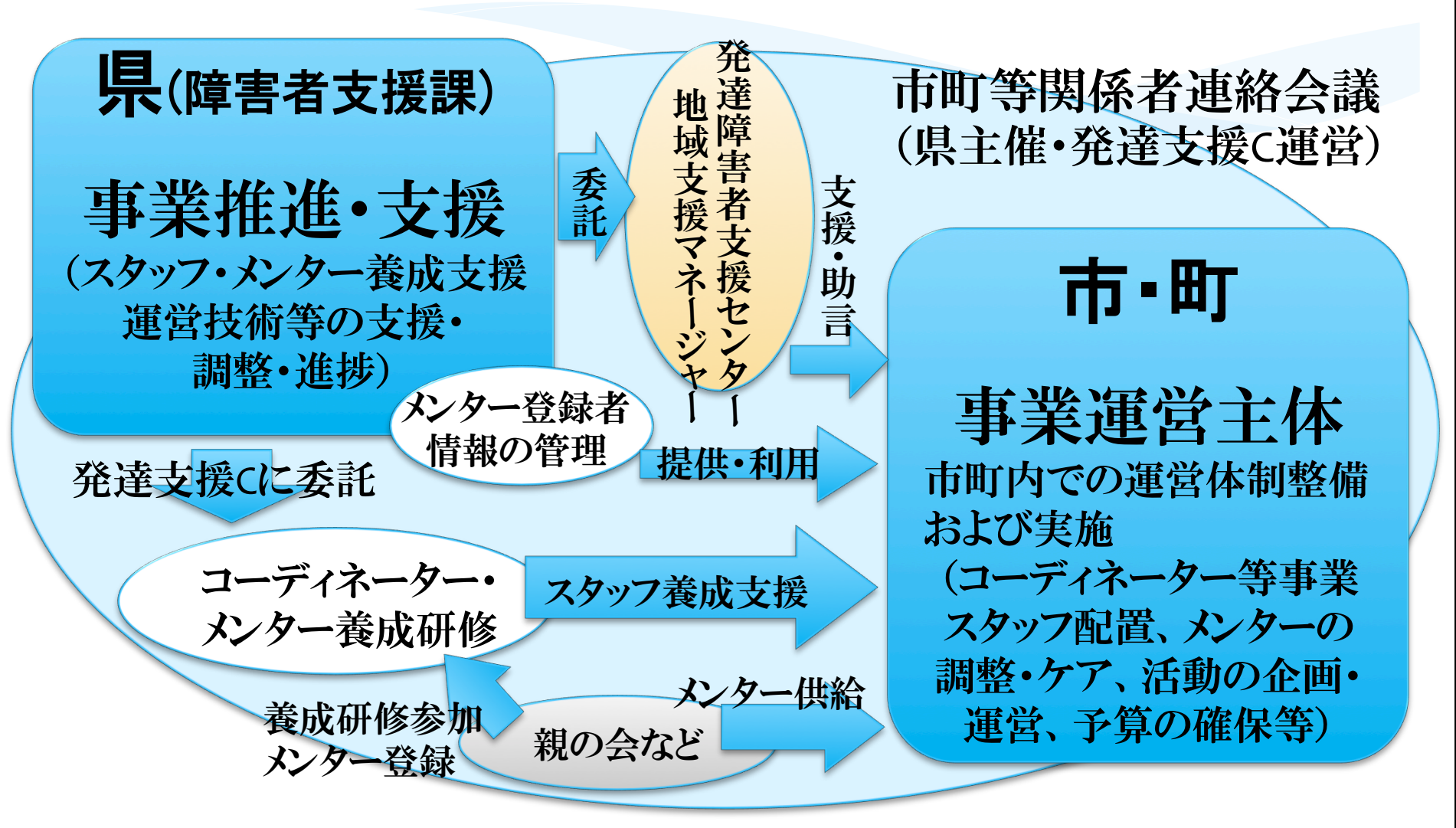
第3編

広島県におけるペアレント・メンター事業の
方向性について

ペアレントメンター事業推進概念図



広島県でのペアレント・メンター事業 (県・市町の役割概念図)



広島県での事業の特徴

- * 市・町が主体となって実施
 - * 地域ニーズ(と実力?)に沿った実施内容
- * スーパーバイザーとしての県
 - * 基本方針と基盤整備、事業進捗、総合調整
 - * 市町へのアドバイス
 - ⇒発達障害者支援C(地域支援Mgr)
- * 県単位での人材養成
 - * 市町単位ではメンター等の確保が困難
 - * メンター登録者情報の管理と市町への提供

共通ルールの設定

- * 活動主体である保護者が、
「安心して気持ちよく」、メンターを引き受けられるよう、一定の枠組みを設定する。
 - * メンター養成研修の修了を必須とする。
 - * 受講者にはメンターとしての登録を依頼する。(任意)
登録者情報は県が管理し、実施市町等に提供する。
 - * 当面はグループ相談とし、個別相談には従事させない。
 - * 実施市町はメンターおよびその親の会との連携を図る。
 - * 関係者連絡会議の開催

県内で活動するペアレントメンターの要件

- * 子(家族)が発達障害の診断を受けていること
- * 広島県で活動するペアレントメンターは、県単位で実施(委託を含む)する養成研修を修了した希望者で、県にペアレントメンターとして活動することを登録した者とする。
- * 研修受講者は、親の会*及び市町からの推薦とする(公開募集しない) (*県、市町がその活動実態を認めているもの)
- * メンター登録者情報は県の管理とする。
- * メンター事業を実施する市町は、登録者名簿*を見て、メンターに依頼する

(*活動可能な地域、事業等を記述)

ペアレントメンターが活動する事業

- * 市町が実施する事業
 - * 発達障害者支援センター、市町の相談センター等の実施事業も含む
- * 当面はグループ相談(集団事業)のみ
 - * 乳幼児検診後のフォローアップ教室等
 - * 障害児に限定しない場合は、メンターであることを示さずに活動するケースもあり得る。
- * 旅費等について、市町等の事業主体が支給する

市町の事業実施体制

- * ペアレントメンター事業コーディネーターを設置する
- * コーディネーターの役割
 - * 事業がペアレントメンターの活動として適切なものとなるよう企画および関係者との調整をおこなう。【事業企画・運営】
 - * クライアントのニーズ・状況とメンターの力量等を的確に把握し、適切なマッチングをおこなう。【ニーズマッチング】
 - * メンター(保護者)のフォローおよびケアが確実におこなわれるよう監視、調整あるいは実施をおこなう。【ケア】 など
- * 県が実施(委託含む)あるいは認定するコーディネーター養成研修を必修とする。
- * 関係者連絡会議に出席し、関係者との情報共有ならびに連携に努める

県の実施支援体制

- * ペアレントメンター事業コーディネーター養成研修の実施(事業委託含む)
- * ペアレントメンター養成研修の実施(事業委託含む)
- * 市町等関係者連絡会議の開催(事業委託含む)
- * 各市町への支援ならびに助言等
 - * 地域支援マネージャー(県発達障害者支援センター)による支援等

ペアレント・メンター養成研修 の一例

- * 1日目「基礎研修・実技」
 - * オリエンテーション
 - * 広島県(〇〇市)のペアレントメンター事業の進め方について
 - * 講義
 - * 相談の技術と基礎知識
 - * ペアレントメンターとは(役割、留意点、心構えなど)
 - * 発達障害についてのおさらい、地域リソース情報提供など
 - * ロールプレイ体験(実技)
- * 2日目「実技」
 - * ロールプレイによる模擬相談
 - * まとめ
 - * フィードバック<振返り・アンケート>・**修了証授与**

ペアレント・メンター事業が成り立つ ための条件とは・・

- * **全体的な家族・保護者支援施策が前提。**
 - * **専門支援職・相談支援職の量的・質的向上が本筋。**
- * **ペアレント・メンターを守れる仕組み**
 - * **フツーの保護者が安心してメンターができる仕組み**
- * **地域で持続可能な体制づくり**
 - * 人材の**継続的育成のしくみ**づくり
 - * **ペアレント・メンターをすることへのメリット**を用意する
 - * 「公助事業である」という**行政の自覚**=予算含む

ペアレントメンター養成講座プログラムの紹介

目的：「ペアレントメンターの役割」や「相談の基礎」の講義を受講し、ペアレントメンターとして活動を始めるにあたっての心構えや留意点を習得する。ロールプレイを繰り返し行うことで、「話を聴く」ことの難しさを体験し、自分の癖や課題に気づき、ペアレントメンターとして活動する際に意識できるようにする。

1日目 「基礎研修・実技」

時間	内容
8:45~9:00	受付
9:00~9:10	オリエンテーション
9:10~10:10	講義 相談の技術と基礎知識
10:10~10:20	休憩
10:20~11:30	講義 ペアレントメンターとは
11:30~12:15	昼食
12:15~13:15	ロールプレイ導入
13:15~13:25	休憩
13:25~15:05	実技 ロールプレイ（受講者：4人1組）
15:05~15:20	休憩
15:20~17:00	実技 ロールプレイ（受講者：4人1組）

2日目 「実技」

時間	内容
8:45~10:25	実技 ロールプレイ（受講者：4人1組）
10:25~10:50	休憩
10:50~12:30	実技 ロールプレイ（受講者：4人1組）
12:30~13:30	昼食
13:30~15:00	まとめ（感想・アンケート・修了証授与）

※プログラムが変更になる可能性があります。
予めご了承ください。

- ・「修了証」であることをしっかり伝える。資格認定証と勘違いされないように注意が必要。
- ・今回の講座を受けて活動できる期限を明記するなど、継続的に研修を受ける必要があるようにする仕組み作りも重要。

・相談全般に共通する基本的な知識や技術について。

・ペアレントメンターの役割や留意点について。
・ペアレントメンターに特化した内容。

・朝早い時間に家を出て養成講座に参加するお母さんたちには、事前にお弁当の注文をとると好評。

ロールプレイの説明と受講者とインストラクター全員でアイスブレイク。初対面の緊張をほぐしてから、ロールプレイへ。

・2日間で4回。
・傾聴に重点。
・ペアレントメンター・相談者・観察者の役割を順番に回しながら、1回ごとにフィードバック。
・インストラクターの間で重点課題などの意識の統一が必要。

・長めに設定。
・おやつを準備。（受講者は慣れないロールプレイに疲労困憊）
・インストラクターは休憩ごとに別室でミーティングをし、受講者の様子を情報共有。グループの変更が生じる場合もあるので、グループは毎回直前に発表。受講者同士の相性、受講者とインストラクターの相性など、いろいろ考慮。
・休憩時などロールプレイ以外の場面での受講者の様子は受講者の性格等を知る材料に。

メンター養成の前に考えること

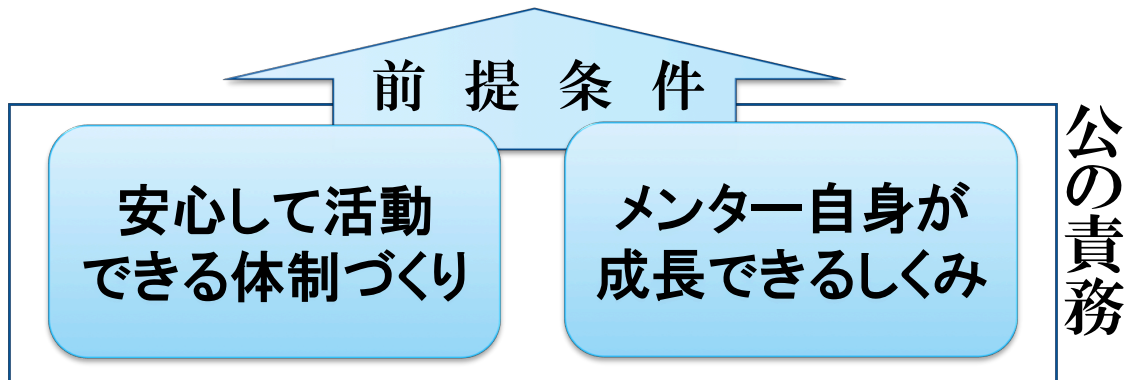
- * 相談・派遣ニーズを具体的に整理する
 - * 誰が、いつ、どのような、どれくらい・・・(5W1H)
 - * ニーズにより、相談形式や派遣形式が決まる
- * 相談・派遣要請をどのように請けるか
 - * 相談機関・支援機関等を経由する例が増えている
- * 運営ルールを明文化し共有する
 - * 多方面の関係者による協働・調整が必須

順風満帆なところはない

- * 動きながら、仕組みを見直し(PDCA)
 - * 先行地域はリスクを身に染みて理解している
- * 厳密な意味では、
ペアレントメンターと言い難いものもある？
- * 事業の拡大とともに、
親の会(当事者団体)から公的機関へ
 - * カリスマリーダーから、安定的・常態的経営へ

「お母さんである。」

***「親による親支援」だが、
親だけでさせてはならない**



広島県のペアレントメンター事業(H29年度)

	H29年4-6月	H29年7-9月	H29年10-12月	H30年1月-3月
コーディネーター 養成研修	研修 準備	コーディネーター 研修		
メンター養成研修			メンター養成研修	
関係者会議			連絡会議 1回	
市町体制整備支援 :地域支援体制 マネジメント事業	通年			

※目標:

3年間でペアレントメンター・コーディネーターを全市町に整備する。
平成31年度に事業評価を行い、事業継続について検討・見直しを行う

